

# 入学直後の学力調査や適性検査の結果は、 学生に返却するだけで良いのか？

－ 学生にとっても、大学にとっても役立つアセスメントの使い方 －

木村 堅一（名桜大学）

平成27年11月14日（土）九州産業大学  
初年次教育に関する研究会～大学教育の質保証における初年次教育～

- 1 名桜大学の沿革、教育・学習支援・学生支援の流れ
- 2 教職員は大学経営のプロではない
- 3 大学経営の基本は目の前にいる在学生の満足度を高めること
- 4 学生や教職員の気持ちに寄り添う
- 5 アセスメント結果を大切に保管することが仕事になっていませんか？
- 6 アセスメント業務で振り回されないために

# 1 名桜大学の沿革、教育・学習支援・学生支援の流れ



## 1994年 沖縄県と名護市を含む北部12市町村による「公設民営」の単科・地方・私立大学としてスタート

- ・国際舞台で活躍できる人材育成を目指し、英語と日本語のバイリンガル教育を構想
- ・国際学部(国際文化、経営情報、観光産業の3学科)1学年の定員345名
- ・開学以来、学生募集状況が悪化し続け、バイリンガル教育は早々に断念、英語科目も年々削減
- ・学生募集対策として、AO入試の導入、特定の運動部を強化、教職課程・資格取得課程の新設ラッシュ、学科カリキュラムの肥大化(コース制が乱立)



# 1 名桜大学の沿革、教育・学習支援・学生支援の流れ

## 2001年

言語学習センター設置。日本初の国際チューター育成プログラム認定施設。学生チューターによる学習支援がスタート

## 2005年

国際学部の保健体育教員養成課程の成功を受け、人間健康学部スポーツ健康学科を新設

## 2007年 国際学部を国際学群へ改組(1学部3学科を1学群1学類5専攻へ)

- 社会的ニーズの高い看護学科新設によって人間健康学部2学科へ
- 先輩学生による新入生支援団体ウェルナビがスタート
- 新入生の現状を理解するため、自己発見レポート(現:大学生基礎力レポート)を初めて全学的に実施

## 2009年 学習支援・学生支援活動が文部科学省GP に採用され、その後、数理学習センターと就職支援学生団体 S-CUBE を新設

- 国際学群の入学者数が過去最低に。学長へ国際学群の改組案を答申

# 1 名桜大学の沿革、教育・学習支援・学生支援の流れ

2010年

私立大学から公立大学法人化へ移行。 学生募集状況が急回復。国際教養系ブームもあり、学群の改組は凍結

2011年

教養教育センター設置によって全学教育改革が本格的に始まる。

- 自己発見レポートと学力テスト(英・数・国)を全学的に実施(毎年の受検者は約500名、～現在に至る)
- その後、2年次にも学力テスト(英・数・国)を実施し、基礎学力の変化を把握(2012～2014年まで)

2014年 開学20周年記念事業として新校舎「学生会館SAKURUM」竣工、学生による学習支援・学生支援のワンストップサービスの拠点化が進む

2015年

教養教育センターをリベラルアーツ機構に改組、教養教育カリキュラム＋学生による学習支援・学生支援活動を強化。

- 現在、1学群1学類、1学部2学科、大学院2研究科、学生数は約2000名、教員数は約100名。第二次中期計画を準備中。大学教育の質保証が最大の課題であるため、アセスメント活用も議論中。

## 2 教職員は大学経営のプロではない

選抜できない学生募集活動、その結果、新入生の学力やニーズも多様化、入学式当日に来ない学生も

教職員は日々の学生指導、学習支援、高校まわり、企業まわり、休学・退学の面談業務に追われる

経営陣は、学科単位で定員割れが発覚した途端、教育カリキュラムが悪いと抜本的な改革を求めるが、原因分析も教職員任せ

急いで改革すると失敗？・・・原因を特定する時間もなく、さらに改革を求められる

責任が曖昧な大学経営の体質。教員個人の責任、大学全体の責任の区別も曖昧

### 3 大学経営の基本は目の前にいる在学生の満足度を高めること

最も大切なのは「**在学生の満足度**」であり、**学外からの評判ではない**  
(元ホテルマンで、多くのホテルを立て直した実務家教員のコメント)

多様な学生が入学してきているので、**目を引く授業を1つや2つ追加しても無駄**  
(特に学科や学部の名称変更をしても短い効果に終わる)  
⇒教員の負担が増えて、疲弊するだけ

通常の授業で十分学ぶことができない学生(**能力が高い、能力・意欲が低い**)への  
の学生支援・学習支援体制の構築は必須

### 3 大学経営の基本は目の前にいる在学生の満足度を高めること

どのような学生が入学してきているのか、学生の顔と名前を覚える努力は惜しまない  
特に、問題を抱えそうな学生(能力、意欲、志望順位など)の学生の名前と顔を覚えよう



自己発見レポート(現:大学生基礎力レポート)・学力テストの活用



問題を抱えそうな学生に、①居場所はあるか、②関係性ができているか、③成長を実感できているか、長期的に見守る。学内でのすれ違い際の挨拶が重要。「見守っている」というメッセージになる。挨拶が連続して返ってこない場合は、黄色信号。



教職員だけでは、無理。大学適応に苦労した先輩学生を巻き込む……ウエルナビの誕生(2007年)。

1年間を通した新生支援活動(入学前、入学直後、履修相談、教養演習で新生へ様々な居場所・関係性づくり)  
学生から提案された大学の改革の方向性に一致した意見・要望は即、実現していく(できない言い訳はしない)

### 3 大学経営の基本は目の前にいる在学生の満足度を高めること

#### 学生像の把握から



「先輩後輩コミュニティを基本とした学習支援センターの構築」  
(文部科学省GP、2009年)

数理系が嫌い。でも克服したい・・・数理系が好きな（克服したい）学生と教員  
が数理学習センターを立ち上げ（2009年）

沖縄の就職活動が厳しい・・・就職で苦労している学生たちと支援したい教員が  
就活支援団体「S-CUBE」を立ち上げ（2010年）

お互いの魅力的な活動が「みえる・つながる・ひろがる」学生中心の空間をつく  
る（学生会館SAKURAU、2014年）

大学で身につけたい力「書く力」・・・学生と教員が試行錯誤してライティング  
センターを立ち上げ中（2015年）

## 4 学生や教職員の気持ちに寄り添う

以前は、調査結果や検査結果（個人票）は、学生に返却して終わりだった・・・  
（大学経営の観点から全体像を把握することが目的だったため）

対  
学  
生

調査結果で最下位の順位を教えてください学生を考えるとなかった  
（この大学でも最下位、やる気を失った・・・）

調査結果でトップの順位を教えてください学生を考えるとなかった  
（この自分がトップとは、この大学で大丈夫なのか不安だ・・・）

学生たちを敵に回さないために（あくまで入学時の参考値、人と競うものではない、自分の目標に向かって成長できるかは本人次第）

対  
教  
職  
員

所属学生の成績が悪い学科や専攻の教職員の気持ちを考えていなかった  
（このテストは信用できるのか？誰が実施した？予算のムダだ）

教職員を敵に回さないために（能力のある学生を育てるのは簡単。能力不足の学生を成長させられる教員の方が優秀。データで証明しましょう）

# 学生や教職員の意欲や自尊心を失わせるアセスメントから、前進することを動機づけるアセスメントの活用へ

- ・ 学生のためには、徹底的に個別支援を目指す（大学の全体像把握は、教職員にとっては重要だが、学生個人にとってあまり利益はない。調査やテストをきっかけに学生の話をしつくり聴く場をつくり、興味をもって成長を見守ることが重要）
- ・ よくある失敗は、「A0 入試や推薦入試を利用する学生は学力が低い」「一般入試の学生は満足度が低い」といった平均値的結論を、すべての学生に当てはめ、偏見や差別を生み出すこと。学生からすると、せっかくアセスメントに協力したのに、偏見や差別をもたれるとは、どういうことなのか。怒るのも当然。学生にとっても、教職員にとっても、大学経営者にとっても良いアセスメントとは何か。

# 5 アセスメント結果を大切に保管することが仕事になっていませんか？

- ・ アセスメントが何に役立つのかを考えてみる（学生にとってはアセスメント実施よりも、ランチ10食分を無料にしたほうがよいのでは）
- ・ 本学でも膨大なアセスメント結果が埋もれている

対学生

アセスメントの結果が**成長するためのきっかけ**  
必修授業「教養演習」において、全ての学生にフィードバックし、**大学での目標と計画づくりに活用**



The image shows the cover of an 'ACTION PLAN NOTEBOOK' and an open notebook with handwritten notes. The cover is blue and white with the title 'ACTION PLAN NOTEBOOK' and '大学卒業レポート 結果報告書'. The open notebook shows two pages with handwritten text and diagrams. The left page has a header '学生生までやり抜いたこと' and a table with columns for '目標', '実行項目', 'スケジュール', and '達成状況'. The right page has a header '自分に必要な「やるべきこと」' and a similar table. The notes include specific goals and action items related to learning and career planning.

対教職員

**個別学生支援・学習支援のきっかけ**  
1年次担当教員全員に指導学生の結果をフィードバックし、支援策の基礎資料としてもらう

対経営陣

アドミッションポリシー（求める学生像）の点検・評価のきっかけ  
ディプロマポリシー（優れた卒業生像）とアドミッションポリシー（求める学生像と入試方針）との関連性を把握し、カリキュラムポリシー（教育方針）を点検するきっかけ

アセスメント(大学生基礎力レポート)と学内の学生情報  
(入試、学業成績、進路)と連結させて  
多様な事例を類型化する(2015年、計画中)

できればアセスメント実施を目的とするだけでなく、  
学生・教職員・大学経営者の問題解決のツールとして  
位置づけるべき。

- ①「学生の利益」や「教育の質保証」につながらないことはやらない
- ②アセスメント主義に陥らないためには、大学の重要な目的を達成する手段や「きっかけ」と割り切る。  
名桜大学では、卒業・修了時に執筆する「卒業論文」・「修士論文」を、大学教育の質をみる最終成果物の中心として位置づけている。そして、卒業論文作成に必要なスキルの獲得を初年次教育の目標にも組み込んでいる。
- ③IRブーム(IRで自己満足にひたるブーム)にふりまわされない
- ④大学を最もよく知っているのはアセスメント業者やIRの専門家ではなく、大学の教職員。自らの直感や感性を信じて良い。それを可視化するのがIR。
- ⑤一人で抱え込まないためにも、まずは学内で、大学改革のためにアセスメントの必要性和活用法を理解できる仲間(できれば課長級以上)を増やす。全国と共通した方法も良いが、自らの大学で納得できる方法を見つけることが、学生、教職員、経営者にとっても最も良いはずだ。